

血球減少

赤血球減少（貧血）

赤血球はからだのなかで酸素を運ぶ役割を持っています。したがって貧血になると酸素が十分にいきわたらなくなり息切れやめまい、立ち眩みめまい、全身倦怠感などを起こします。

想定される病気としては単なる鉄欠乏性貧血が多いですが時に葉酸やビタミン不足、慢性疾患、腎臓の病気や遺伝・先天性の病気、悪性腫瘍などもある造血幹細胞レベルの障害

白血球（好中球）減少

白血球はウイルスや細菌といった外敵が体の中に入り込もうとするのを防ぐはたらきがあります。これが不足することで感染症にかかりやすくなります。また、肺炎などが重症化することがあります。

ウイルス感染などに伴って骨髄が抑制されているケースはしばしばみられますが、その他にも自己免疫性疾患、悪性腫瘍、血液の病気などが考えられます。病院で詳しい検査が必要でしょう。

血小板減少

血小板は止血をするはたらきを持っています。血小板が不足することで簡単に血が出やすくなったり、止まらなくなったりします。

産生が低下する疾患と消費が亢進する疾患があります。前者は血液の病気、後者は特発性血小板減少症や溶血性尿毒症症候群です。先天性の病気が隠れていることもあります。

当院での対応：

おそらく何らかの血液検査で発見されることが多い病態ですが、大病院での検査をまずお勧めします。実際血球を顕微鏡で見る検査を経て、他の血液検査も組み合わせて診断できる病気・診断が予想できる病気・骨髄検査など追加検査を要する病気に分かります。健診やクリニックではわからないことも多いので一度大病院を受診ください